

美しい山河を守る 災害復旧基本方針

平成14年版

平成14年6月

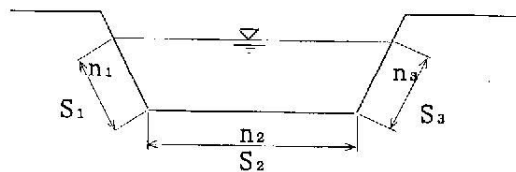
1. 粗度係数

(1) 粗度係数の考え方

1) 単断面の中小河川では河床材料の他に河岸法面粗度の影響も無視できないので、河床部、高水敷部と護岸部（法面部）に分けて粗度係数を設定し、これらを合成して求める合成粗度係数（N）を用いるものとし、各部位毎の粗度係数（n）とその潤辺（S）により次式を用いて求める。

$$N = \left(\frac{\sum_{i=1}^m (n_i^{3/2} \cdot S_i)}{S} \right)^{2/3} \quad \text{《参I-7ページ参照》}$$

$$S = S_1 + \dots + S_m$$



2) 複断面では、高水護岸を対象とする場合と、低水護岸を対象とする場合とに分けて求める。

[高水護岸]

① 高水敷の粗度係数を用いる。 ($n = n_2$ or n_3)

また、この場合の設計水位 (H_d) は下記のとおりとする。

$$H_d = \text{設計水位} - \text{平均高水敷高}$$

[低水護岸]

② 低水路の粗度係数を用いる。 ($n = n_4$)

また、この場合の設計水位 (H_d) は下記のとおりとする。

$$H_d = \text{設計水位} - \text{平均河床高}$$

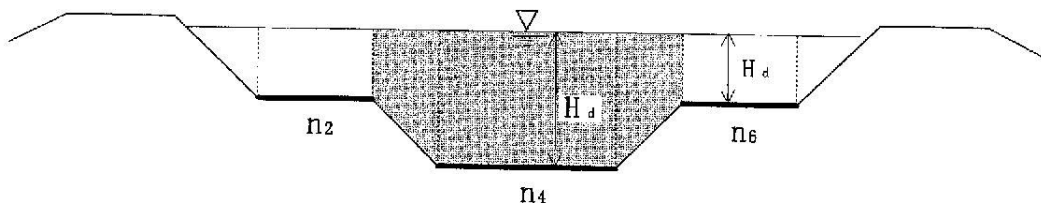
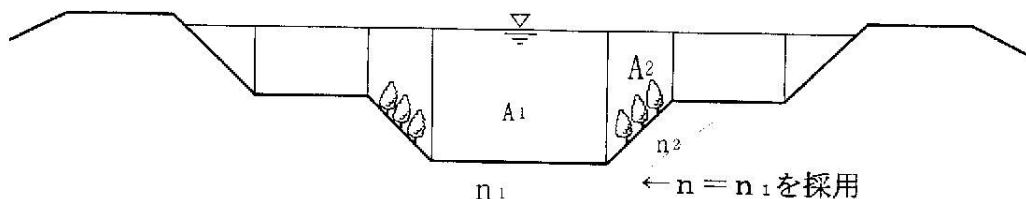


図 I-1-1 粗度係数の取り方

・河畔林がある場合でも、河床部の粗度係数により算定する。



なお、各部位に用いる粗度係数は、(2)以降により求める。

美しい山河を守る災害復旧基本方針

平成10年7月21日 初版 発行

平成11年5月10日 第二版 発行

平成12年7月31日 第三版 発行

平成13年6月1日 第四版 発行

平成14年6月21日 第五版 発行

発行 社団法人全国防災協会

東京都港区虎ノ門1丁目16番2号

虎ノ門東鉦ビル

TEL(03)3508-1491

FAX(03)3508-1493

印刷 株式会社 クライム
